中小企業診断士試験

出る順診断士令和元年１次本試験解説

財務・会計

LEC東京リーガルマインド

0 001412 200118
NL20011

【令和元年度の講評】“初心忘るべからず”

１－１　講評

令和元年度の財務・会計は、例年に比べ取り組みやすかった（合格率 16.32%[1]）と思われる。

出題は、会計分野から小問レベルで 13 問（第１問～第 12 問）、財務分野から小問レベルで 12 問（第 13 問～第 23 問）であった。また、計算問題は 12 問と例年同様と言える。

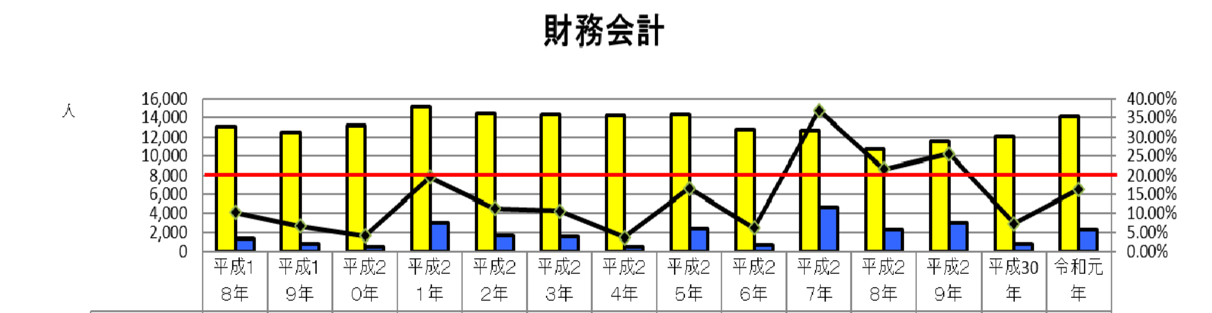
新しい傾向や初出題の論点が見受けられたこと、問題の並びが診断協会の出題分野の記載順とかなり違う（例年通りではない）ことから戸惑った受験者も居たとおもわれるが、見慣れない出題だが基礎的な内容の問題や過去問ほぼそのままの問題もあり、試験対策を十分に行ってきた受験生であれば合格点を獲得することは難しくなかったと思われる、

全体正答率が 60%以上の問題が 15 問と多かった一方、全体正答率が 25%に満たない難問や、初出題の論点があり回答順には工夫が必要であった。「見慣れない問題」を後回しにし、「内容・形式的ともに基本的な問題」に取り組む。次に、「見慣れない出題形式ではあるが基本的な論点の問題」、「初見だが知識を使えば得点できる問題」や「一点突破（選択肢の１つがわかれば正答）問題」の順に 60 分を冷静に進める事ができれば合格得点を積み上げることは難しくなかったと思われる。

過去問がほぼそのままの出題も見られ、出題範囲の全般にわたって基本学習を一通り行い、５年分以上の過去問にしっかり取り組んでいることも重要であった。

[1] 一般社団法人 中小企業診断協会　小企業診断士試験の情報より作成）

表 1　受験者数、合格者数の推移（財務会計）



	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
受験者数	13,140	12,445	13,171	15,209	14,459	14,388	14,213	14,343	12,784	12,649	10,753	11,573	12,033	14,157
合格者数	1,358	829	537	2,971	1,631	1,538	534	2,374	784	4,666	2,320	2,969	876	2,310
合格率	10.33%	6.66%	4.08%	19.53%	11.28%	10.72%	3.76%	16.55%	6.13%	36.89%	21.58%	25.65%	7.28%	16.32%

１－２　出題領域

全体的には、ほぼバランスの良い出題ではあるが、大分類の領域で出題されていない「(5)利益と資金の管理」、「(6)キャッシュフロー（CF)」があった。出題順は、アカウンティング→ファイナンスは出題分野通りではあるが、それぞれの領域内ではかなり相違がみられた。以上の２点は昨年度初めて見られた傾向であり、これがそのまま踏襲された。

診断協会発表の出題分野」から見た「今年度(R01)の出題分野」の分析

1次試験（財務･会計）出題分野 ※診断協会発表の「試験科目設置の目的と内容」より。			
	大　分　類	小　分　類	
会計	(1)簿記の基礎	簿記原理	□
		会計帳簿	■
		決算処理	■
	(2)企業会計の基礎	損益計算書	■
		貸借対照表	■
		CF 計算書	■
		企業結合	■
		会計ディスクロージャー	■
		税効果会計	■
	(3)原価計算	原価概念	□
		原価計算の種類と方法	■
	(4)経営分析	経営比率分析	■
		損益分岐点分析	□
		利益増減分析	□
	(5)利益と資金の管理	利益計画	□
		予算・実績差異分析	□
		資金繰りと資金計画	□
財務	(6)キャッシュフロー（CF）	CF の種類と算出	□
		CF マネジメント	□
	(7)資金調達と配当政策	資金調達の形態	■
		資本コスト	■
		配当政策	□
		最適資本構成	■
	(8)投資決定	貨幣の時間価値と割引 CF	■
		投資評価基準	■
		不確実性下の投資決定	□
	(9)証券投資論	ポートフォリオ理論	■
		資本市場理論	□
	(10)企業価値	株価の算定	■
		企業価値評価モデル	■
		企業合併･買収の企業評価	□
	(11)デリバティブとリスク管理	リスクの種類	□
		オプション取引	■
		先物取引	□
		スワップ	□
－	(12)その他財務･会計に関する事項	ー	ー

R01年1次（財務･会計）問題

- ■第 01 問　商品の損益計算
- ■第 02 問　圧縮記帳
- ■第 03 問　連結会計
- ■第 04 問　銀行勘定
- ■第 05 問　会社法上の計算書類
- ■第 06 問　棚卸資産の評価
- ■第 07 問　負債の会計処理
- ■第 08 問　税効果会計
- ■第 09 問　原価計算（価格差異）
- ■第 10 問　原価計算（直接原価計算
- ■第 11 問(1)　経営比率分析（安全性）
- ■第 11 問(2)　経営比率分析（ROA）
- ■第 12 問　キャッシュフロー計算書

- ■第 13 問　ポートフォリオ理論（無差別曲線）
- ■第 14 問　本質的価値
- ■第 15 問　ポートフォリオ理論
- ■第 16 問　貨幣の時間価値
- ■第 17 問　ポートフォリオ理論
- ■第 18 問　金利
- ■第 19 問　株価評価
- ■第 20 問　資金調達
- ■第 21 問　WACC
- ■第 22 問(1)　企業価値（ROE，ROA）
- ■第 22 問(2)　企業価値（MM理論）
- ■第 23 問　設備投資の経済

※下線は、計算問題であることを示す。
（25 問中 12 問が計算問題だった。）

１－３　正答率一覧

正答率を確認すると、必達(全体正答率が 60%以上)：15 問、新しい論点：５問(見慣れない出題形式：２問を含む)、合否を分けた問題：３問、難易度が高い問題：３問であった。過去にほぼ同じ出題が確認できる問題が８問あった。

通し番号	問題	設問	解答	正答率			≧6割と<6割の差	分類				
				≧6割	全体	<6割		必達	新しい論点	同じ過去問	難易度	合否を分けた
1	第1問	－	ウ	91.7%	79.9%	60.5%	31.2%	○				
2	第2問	－	ア	65.4%	52.3%	30.9%	34.5%		○			○
3	第3問	－	イ	51.1%	40.2%	22.2%	28.9%					
4	第4問	－	イ	74.4%	64.0%	46.9%	27.5%	○		○		
5	第5問	－	エ	24.8%	21.5%	16.0%	8.8%			○	難	
6	第6問	－	ウ	50.4%	44.9%	35.8%	14.6%		△			
7	第7問	－	ア	36.1%	24.8%	6.2%	29.9%		○		難	
8	第8問	－	ア	66.9%	55.6%	37.0%	29.9%					○
9	第9問	－	ウ	78.2%	72.4%	63.0%	15.2%	○				
10	第10問	－	ウ	74.4%	65.4%	50.6%	23.8%	○	△			
11	第11問	設問1	ウ	88.7%	72.9%	46.9%	41.8%	○		○		
12		設問2	イ	94.0%	88.3%	79.0%	15.0%	○		○		
13	第12問	－	ア	82.0%	69.2%	48.1%	33.8%	○				
14	第13問	－	ア	72.2%	64.0%	50.6%	21.6%	○		○		
15	第14問	－	エ	24.8%	23.4%	21.0%	3.8%				難	
16	第15問	－	ア	57.9%	48.1%	32.1%	25.8%					
17	第16問	－	ウ	75.9%	66.4%	50.6%	25.3%	○	○			
18	第17問	－	イ	94.0%	83.6%	66.7%	27.3%	○		○		
19	第18問	－	エ	78.2%	68.2%	51.9%	26.3%	○				
20	第19問	－	イ	86.5%	79.9%	69.1%	17.3%	○				
21	第20問	－	エ	97.0%	87.4%	71.6%	25.4%	○				
22	第21問	－	イ	100.0%	91.6%	77.8%	22.2%	○				
23	第22問	設問1	イ	57.1%	44.9%	24.7%	32.5%			○		
24		設問2	エ	65.4%	51.9%	29.6%	35.8%			○		○
25	第23問	－	エ	83.5%	80.8%	76.5%	6.9%	○				

１－４　類似出題

「本試験過去問(H30 以前)」から見た「今年度(R01)の出題分野」の分析

R01 1 次問題番号	出題分野	類似の本試験過去問
1	商品売買益	H28-1、H22-4、H20-2
2	圧縮記帳	－
3	連結会計	H13-5
4	銀行勘定	H27-3
5	会社法上の計算書類	H19-7
6	棚卸資産の評価方法	－
7	負債の会計処理	△H17-8
8	税効果会計	H29-6、H23-8、H20-6、H18-7、H16-9
9	原価計算（価格差異）	H29-9、H28-7、H25-10
10	原価計算（直接原価計算）	－
11(1)	経営比率分析（安全性）	H28-9、H23-9、H20-11
11(2)	経営比率分析（ROA）	H29-11、H26-9、H26-10、H25-5(1)、H25-5、H22-8
12	キャッシュフロー計算書	H30-12、H29-13
13	ポートフォリオ理論（無差別曲線）	H25-19
14	オプションの価値（本質的価値）	H30-15、H26-22
15	ポートフォリオ理論	H30-17、H29-23、H28-13、H27-19、H21-17
16	貨幣の時間価値	－
17	ポートフォリオ理論	H30-17、H29-19、H28-18、H26-17、H22-16
18	金利	－
19	株価評価	H24-20、H19-12
20	資金調達	H29-14、H28-10、H24-15、H21-12
21	WACC	H29-24、H28-14、
22(1)	企業価値（ROE，ROA）	H30-21、H26-15(1)(2)、H24-17(1)(2)、H19-17(1)(2)
22(2)	企業価値（MM理論）	
23	設備投資の経済性	H20-23、H17-10

5 年前以内の類題、6 年前以前の類題

複写･頒布を禁じます

１－５　重要問題

【問題】令和元年度　第２問

第２問

Ａ社は、20X1 年４月１日に補助金 6,000 千円を現金で受け取った。続いて 20X1 年 10 月１日に、その補助金 6,000 千円と自己資金 16,000 千円で機械装置 22,000 千円を購入し、直ちに使用を開始した。その際、直接減額方式による圧縮記帳を行った。また、20X2 年３月 31 日（決算日）に、定額法（耐用年数 4 年、残存価額ゼロ）により減価償却を行った。

購入時の固定資産圧縮損と決算時の減価償却費の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

ア　固定資産圧縮損：　6,000 千円　　　減価償却費：2,000 千円
イ　固定資産圧縮損：　6,000 千円　　　減価償却費：2,750 千円
ウ　固定資産圧縮損：22,000 千円　　　減価償却費：2,000 千円
エ　固定資産圧縮損：22,000 千円　　　減価償却費：2,750 千円

【問題】令和元年度　第８問

第８問

　決算に当たり、期首に取得した備品 1,200 千円（耐用年数 4 年、残存価額ゼロ）について定額法で減価償却を行った。しかし、この備品の税法上の耐用年数は６年であった。このとき、計上される繰延税金資産または繰延税金負債の金額として、最も適切なものはどれか。なお、法人税等の実効税率は 30％とする。また、期首における一時差異はないものとする。

ア　繰延税金資産：30 千円
イ　繰延税金資産：70 千円
ウ　繰延税金負債：30 千円
エ　繰延税金負債：70 千円

【問題】令和元年　第 22 問

Ａ社は、5,000 万円の資金を必要とする新規事業を始めようとしている。この投資により毎期 300 万円の営業利益を確実に得ることができ、この営業利益はフリーキャッシュフローに等しいものとする。今、5,000 万円の資金を調達するために、次の２つの相互排他的資金調達案が提案されている。

MM理論が成り立つものとして、下記の設問に答えよ。

（第１案）5,000 万円すべて株式発行により資金調達する。

（第２案）2,500 万円は株式発行により、残額は借り入れにより資金調達する。
なお、利子率は５％である。

（設問１）

第２案の自己資本利益率として、最も適切なものはどれか。ただし、法人税は存在しないものとする。

ア 6%　　イ 7%　　ウ 8%　　エ 12%

（設問２）

法人税が存在する場合、（第２案）の企業価値は（第１案）のそれと比べていくら差があるか、最も適切なものを選べ。ただし、法人税率は 30%とする。

ア　（第２案）と（第１案）の企業価値は同じ。

イ　（第２案）の方が（第１案）より 125 万円低い。

ウ　（第２案）の方が（第１案）より 125 万円高い。

エ　（第２案）の方が（第１案）より 750 万円高い。

【問題】令和元年度　第 14 問

第 14 問

オプションに関する記述として、最も不適切なものはどれか。

ア　オプションの価格は、オプションを行使した際の価値、すなわち本質的価値と時間的価値から成り立っている。
イ　オプションの時間的価値はアット・ザ・マネーのとき、最大となる。
ウ　コールオプションにおいて、原資産価格が行使価格を上回っている状態を、イン・ザ・マネーと呼ぶ。
エ　本質的価値がゼロであっても、時間的価値が正であれば、オプションを行使する価値がある。

【問題】令和元年度　第 15 問

第 15 問

ポートフォリオに関する記述として、最も適切なものはどれか。

ア　安全資産とはリスクのない資産であると定義される。

イ　安全資産と有効フロンティア上の任意の点で新しいポートフォリオを作ることにした。このとき、新たなポートフォリオのリスクとリターンの組み合わせは曲線となる。

ウ　安全資産と有効フロンティア上の任意の点で作られる最も望ましいリスク・リターンの組み合わせを証券市場線という。

エ　危険資産のみから構成されるポートフォリオの集合のうち、リスク・リターンの面から望ましい組み合わせのみを選んだ曲線を投資機会集合という。

１－６　正解選択肢

H18～R01 の正解選択肢の分布

年度	選択肢 ア	イ	ウ	エ	オ	合計
H18(2006)	4問	7問	8問	7問	0問	26問
H19(2007)	5問	6問	6問	8問	0問	25問
H20(2008)	7問	7問	9問	4問	0問	27問
H21(2009)	3問	11問	5問	6問	0問	25問
H22(2010)	2問	9問	8問	5問	1問	25問
H23(2011)	6問	9問	6問	3問	1問	25問
H24(2012)	7問	3問	8問	7問	0問	25問
H25(2013)	10問	6問	4問	6問	0問	26問
H26(2014)	5問	5問	10問	5問	0問	25問
H27(2015)	4問	4問	10問	6問	1問	25問
H28(2016)	8問	4問	6問	7問	0問	25問
H29(2017)	7問	4問	9問	4問	1問	25問
H30(2018)	5問	5問	9問	6問	0問	25問
R01(2019)	6問	7問	6問	6問	0問	25問
合計(問)	79問	87問	104問	80問	4問	354問
合計(%)	22.3%	24.6%	29.4%	22.6%	1.1%	100.0%

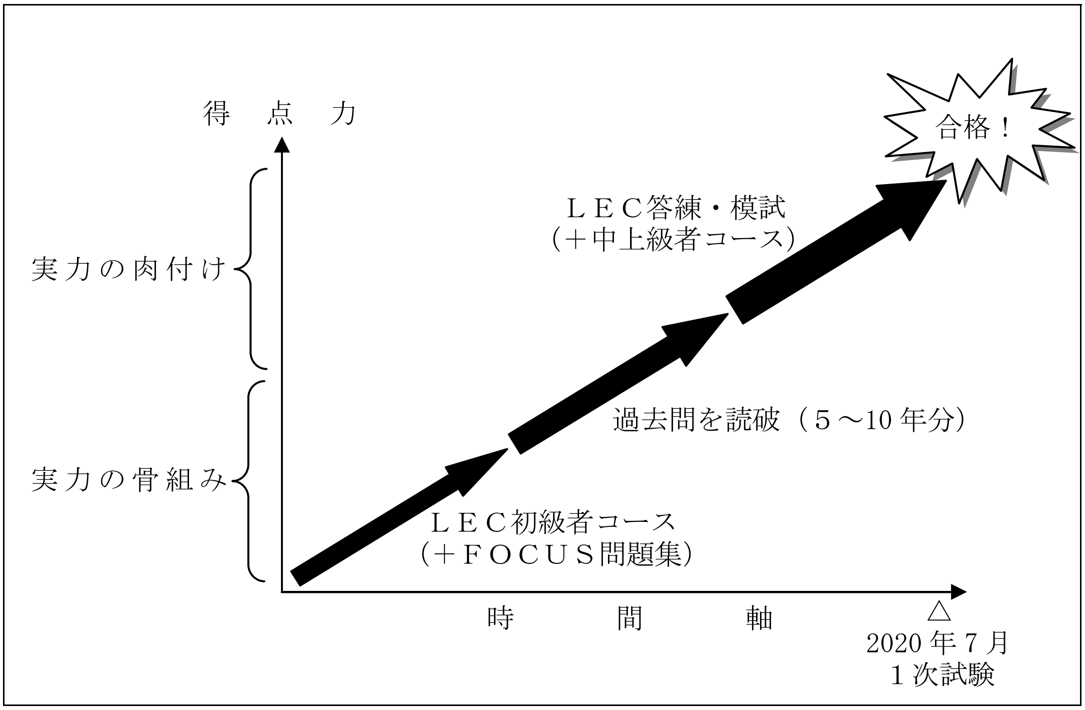
学習計画

自分の状況に応じた着実な学習が結局は近道！

　診断士試験の１次試験は、相当に学習を重ねた受験生でも高得点（70、80 点以上）を獲得することが難しい試験である。このことは、圧倒的な「知識力」だけでも、巧みな「解答力」(思考力やテクニック) だけでも対応しきれないということを意味する。今年の「財務・会計」の試験は、例年に比べると難易度が高く、「知識力」と「解答力」を駆使することが合格圏得点を確保する重要なポイントであったと考える。また、難易度の低い年度であっても、高得点（70、80 点以上）を獲得する受験生の割合はそれほど多いわけではない。

　このような試験で合格の栄冠を勝ち取るには、「知識力」と「解答力」をバランスよく身につけることが肝要であり、インプット学習（知識の蓄積）とアウトプット学習（解答力の習得）を、自分の状況に応じてバランスよく着実に行うことが、結局は合格への近道といえる。

　具体的には、来年（令和２年）の１次試験学習対策として、以下のような段階的な流れを想定し、自分にとって最も効果的な学習方法を採られたい。



以　上

中小企業診断士試験
出る順診断士令和元年１次本試験解説
財務・会計

（NL20011）

著作権者　株式会社東京リーガルマインド
©2019 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。